「かえっこ」広場 人気

不要なおもちゃ 交換

楽しく環境教育も

子どもたちがいらないおもちゃを交換するイベント「かえっこバザール」が全国に広がっている。環境や防犯、防災などのクイズに答えるとさらにポイントがもらえて、好きなおもちゃと交換できる仕組み。楽しみながらリユース（再利用）も社会的知識も学べるとあって、自治体からも注目されている。（小川雪）

右かえっこバザールで使うカードとポイント券左会場には持ち寄られたおもちゃが集まる。たまったポイントでおもちゃを交換してもらう＝1日、大阪府枚方市で、杉本康弘撮影

3月の土曜日、神戸市の垂水区役所が入る建物のロビーに、ぬいぐるみや絵本、ボードゲーム、アクセサリーなどが並んだ。神戸市環境局が主催した「かえっこ」だ。赤ちゃんを連れたお母さんから小学生まで約300人が訪れた。

子どもなら誰でも無料で参加でき、いらないおもちゃを会場の「かえっこバンク」に持っていくと1～3ポイントの「カエルポイント」をもらえる。主催者の趣旨に応じてさまざまなコーナーがあり、参加したり、運営を手伝ったりすると交換ポイントをもらえる。

競売で会場沸く

この日のテーマは環境。集まったおもちゃを磨くコーナー、「水道をこまめに止める」だと進み「電気がつけっぱなし」だと戻る「環境すごろく」コーナー……。運営は、まちづくり団体や大学生らが担い、神戸市地球環境課は「地域の交流の場にもぴったり」。

4歳の息子とめいを連れてきた神戸市の宮崎克子さん(42)は、ぬいぐるみなどを持参、折り紙のコーナーにも参加してポイントをため、アニメキャラのプリキュアやウルトラマンのおもちゃに換えた。「捨てるにはもったいないけど、友人にあげても迷惑かもしれない。処分にはいつも悩むので助かります」

一番盛り上がるのはオークション。持ち込まれた中から出品される。オークションを目指し、コーナーに参加、ポイントをためる子も多い。

別の週末には、大阪市此花区で「防犯」をテーマに開かれた。約300人の親子が、地域を歩いて「こども110番の家」を見つけたり、不審者にどう対応するかなどの防犯クイズを解いたりしてポイントをため、おもちゃに交換した。

防災訓練注目株

「かえっこ」の考案者は福岡県在住の美術家、藤浩志さん(46)。00年、2人の娘がいらなくなったおもちゃでお店を開きたいと言い出した時、「お金ではなく、ものとものの交換に」と思いついた。サイト（http://www.geco.jp/kaekko/）で運営方法や開催情報のリンクなどを公開している。経費はポイントカードの作製費くらい。地域の活性化や国際交流、育児と、様々なテーマでできるとあって、各地で自治体や、住民グループが活用する。

注目株は、かえっこと防災訓練を組み合わせた「カエルキャラバン」。阪神大震災10年の05年、NPOのプラスアーツ（大阪市）が神戸市内7カ所で開いた。水消火器を使った的当てゲーム、毛布で担架を作り人形を運ぶリレーなど、楽しみながらも被災時の心構えや技術を学ぶ。横浜で5月6日まで開催中の「地震EXPO」で6日間、さらに6月は神戸で開く。

などの名前が挙がってい